

3年生社会科通信'22 第3号

2022/6/4

○第一次世界大戦がもたらしたもの

・女性参政権の拡大とヨーロッパの議会政治

世界大戦に従軍した兵士たちの多くが、参政権をもとめました。また、国家に貢献すべく働いていた女性の政治参加・社会参加も進みました。

普通選挙が広がってから、イギリスでは労働者のための政党(労働党)でマクドナルド内閣が誕生するなど、それまでの政治制度と方向が大きく変わりました。

また、同盟国(ドイツ・オーストリア・トルコ)の帝国解体と共にできた小国は、多くが共和制を取ったことから、世界のスタンダードとして民主主義と普通選挙が広まっていきました。



・黙殺される心身の傷

第一次世界大戦では、毒ガスなどの新しい兵器が使われたことによって、今までにない心身の傷を負う人が増えました。しかし、戦争に行くことで多大な犠牲を出すということを、国が公にすることはありませんでした。



特に銃弾が飛び交う場所で精神が安定しなくなってしまった人(シェル・ショック/戦争神経症)は、体の麻痺や筋萎縮などの症状を見せました。こうした症状は、「臆病者」の演技として当初は軽視され、多くの人が適切な治療を受けられませんでした。終戦後、兵士たちの話を聞くなどの臨床診断・精神医療は、投薬・電気ショックなどの神経治療よりも効果的であることが認められ、精神=神経医学は大きく方向転換することになります

・NGOの誕生と発展

大戦後、イギリスの活動家エグランティン・ジェブが、国の対立にとらわれずに、飢えに苦しむ子どもたちに食料や薬をおくる「セーブ・ザ・チルドレン」という活動をつくります。こうした活動は政府に関わらないことからNon-Government Organization (NGO非政府組織)と呼ばれ、第2次世界大戦にかけての混乱の中で、政府の方針にかかわらず、人道的な立場から人を救おうという活動が多岐にわたり生まれていきます。



エグランティン・ジェブ

・パレスチナ問題の発生

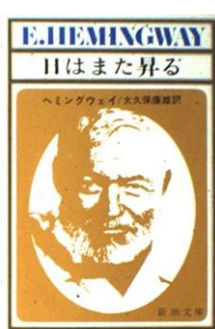
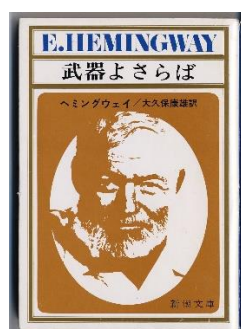
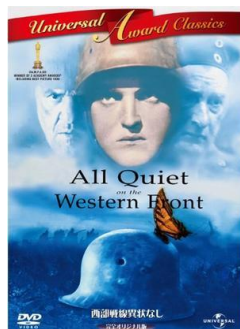
イギリスは大戦を早期に終結させるため、味方を増やそうと画策しました。現在のイスラエル地域において、ユダヤ人には建国の約束、アラブ人には領土保全の約束、フランス人には分割統治の約束をしました。大戦後、同じ場所で民族が自分の領地を主張することになり、現在まで続く大きな対立の火種になりました。



・ロスト・ジェネレーション(失われた世代)の誕生

大戦に参加した世代は、特にアメリカでロスト・ジェネレーションと呼ばれ、大戦の経験を引き継いで作品を作り上げました。日本でも、ヘミングウェイやフィッツジェラルドなどが日本でも知られています。大戦景気によって享乐的な生活をする人物が多く現れ、同時にそうした生活を嫌い、人間の精神性を求める活動も盛んになっていきます。

☆もっと深める



映画「西部戦線異状なし」

○社会主義への夢を描いた時代

第一次世界大戦の後、日本でも社会主義が大きな勢力になりました。資本主義の問題点を提示し、よりよい働き方をもとめる運動は、戦時下弾圧されながらも着実に一般の人々にまで根を張っていききました。当時の人々は社会主義に対してどのような期待をよせていたのでしょうか。ここでは、日本を代表する社会主義者とその主張を見ていきたいと思います。



大杉栄(おおすぎ さかえ)
無政府主義者・文筆家
労働組合を通じて、社会の労働問題の解決を訴える

労働組合への参加は自由で、政党による指導は不要という立場

『平民新聞』や雑誌『近代思想』などの出版を主導し、日本の言論の広がり、社会運動の広がりにも多様な貢献をした。

社会運動を進めるが、個人の自由を徹底して尊重し、日本におけるアナキズムの軸となった。

関東大震災の混乱に乗じて、憲兵隊により殺害される。墓は現在静岡市に置かれる



山川均(やまかわ ひとし)
社会主義者・文筆家

労働組合の連帯から社会主義運動を盛り上げることを提唱し労働者として一番過酷な生活をしている人々たちを、積極的に労働組合へ参入させていこうとした

日本共産党の立ち上げに参加するが、大衆運動との合流を目指して離れる。社会主義者としての言論を多数上げるが、政党に入り込むのではなく、農家や労働者としても働き、一般の人々、苦悩する人々と同じ視点を持ち続けようとした。

戦後は日本社会党のブレインとして活躍した。妻は女性活動家の山川菊江。

・私どもは、私どもの自身の生活を見るに、目に見える鉄の鎖や手かせ足かせで縛られてはいないものの、やはりいろいろな目に見えない鎖や足かせで、生涯しばりつけられているのです。こうして生きていくことがそのまま終身懲役になっているのです。

・社会的個人主義とは、各個人の個性の多種多様な自由な発達が、社会組織の第一条件であり、社会進化の第一要素であるべき事を主張する、一社会的学説である。

無産階級の運動は、まず大衆にさきだつて階級的にめざめた、少数者の運動からおこってくる。

階級意識は天から降ってくるものでもなければ、地からわきでるものでもない。それは資本主義の社会には、搾取者の階級と被搾取者の階級とが対立しているという、生活の現実がわれわれの頭に映じた影である。階級意識は五人や三人の非凡な天才のみが意識することのできるむつかしい理屈ではなくて、いやしくも資本主義の社会に生活している以上は、無産階級全体の頭のなかに、一樣にわいてくる意識である。(中略)しかし資本主義の太陽を反射する階級意識の光線は、まず少数の人びとの頭に、はっきりと映じる。そこで階級意識にめざめた無産階級のうちの少数者の運動がまず現われる。

大杉栄はアナキズム(無政府主義)の立場から、山川均はポリシェビズム(社会主義政党)の立場から、日本の社会主義を構想しました。この他にも多くの方が、日本の困っている人々のために政治活動を広げようとしていました。大正時代には、人々がよりよい生き方、働き方、国際社会への参加など様々な理由から、社会主義に大きな期待を寄せました。そして、社会主義活動は、日本における働き改革の一助となり、今の私たちの生活を支えているのも事実です。

反面、この時は社会主義政党があまりにも理想化されすぎており、実際の一党独裁政権が誤りを認めることなく突き進む危険性などは気にされることなく、議論が進んでいきました。日本の中で実際に社会主義の理想が消えたのは1989年のソ連の崩壊によって、政治の実態が見えたときです。

現在、各国で貧富の差が、時には文化的なもの(本、映画、美術館)へのつながりを決めていることも分かってきました。この貧富の差を、今どのように改善していくのかが、過去の思想家から学ぶのも一つの策かもしれません。

3年生社会科通信'22 第5号

2022/6/11

○100年前の議論に挑む ～母性保護論争 女性の自立と保護をどう考えますか～

皆さんはどちらの主張に共感しますか？ その結果と理由は以下の通りです。



女性は徹頭徹尾自立して生きるべき 与謝野晶子



女性の出産・育児を前提とした支援を国が行うべき 平塚らいてう

与謝野さんに共感する 47人

/

平塚さんに共感する 41人

〈与謝野さんに共感する〉

- ・女性は男とともに支え合い家庭で行っていくもの。経済的に独立したほうがいい。
- ・男女が協力していくことで女性が独立という考え方だから
- ・国のサポートが必要な場合もあるけど、全員それが必要な前提なのは変だし、男女で支え合うことが大切だと思う、働きたい女性もいると思うから
- ・国のサポートが全女性に行き届くとは思わない。差が出てしまうので、与謝野さんの方がいいと思う
- ・女性でも男との区別をなくし、みんな平等という考えを持っているから
- ・男女の区別なく働くことができるものと、出来ないものがあるので、完全に区別を無くすことはできないと思うが、男女どちらも安定した職に就くことができれば、女性の地位があがると思った。
- ・親になってしまったからには、基本は男女が責任を持って男も女も平等に育児をしていくべきだと思う。男と対等の立場になることが必要。平塚さんの方は女性の個人の意見を潰してしまうことになると思うから。(子供を産みたくない人もいる)
- ・女性はちゃんと経済的にも徹頭徹尾自立すべきだと私も思ったからです。いくら出産などが危険だからとはいえ、支援すべきは他にあるのではないかと思います。
- ・男性は家庭を支えるために働いて稼いでいる。それに見合うほどのことをしてこそ、女性と男性が平等だと言えると思う。
- ・出産しない人も、結婚しない人も、だから特別な人だけ国がサポートするとなると、問題になりそう。国を頼るのではなく、身内である家族を頼った方が安心感があると思う。
- ・平塚さんの主張だと、女性は出産育児をすることを強制しており、自由度があまりになくなってしまっている
- ・家庭は男女が支え合っていくものだと思うから。国がサポートする体制をつくとそれこそ差別になってしまうと思うから
- ・家族は支え合うものだから、女性ばかりで支援してしまうと、今度は男性の方が何も無くなってしまっているので、同じ権利などの平等の方がいいです。
- ・女性にはまだ社会進出が部分的にしかなく社会的に認められているのは手に職をつけて、経済的に独立することなので、男女の区別なく男女平等を目指していけば、社会の一員として本当に女性は自立したということがとても大事だったからです。
- ・平塚さんの考え方もいいと思ったけど、今の時代を考えると、女性は出産・育児をすることが前提にされているのは嫌だし、「女」だからという差別？になるかなって思いました
- ・女性が社会的に自立することは大切だと思うし、育児は女性が当然のようにやっていることはおかしいと思うから
- ・男性も女性も同じ人間だから与謝野さんの考え方の男女が共に支えあって家庭で行っていくところが納得できたから女性だけが、育児をするのもどうなのかなと思ったから
- ・女性が自立していくために、国の保護をもらうというのは努力を放棄させるという考えに私もそうだと思います。育児に、男女ともに協力合って育方が、親としての責任を取る(自立する)ことなのではないかと思いました。
- ・結婚して子ども産んで…だけが女性の生き方ではないと思うから。また、女性を保護下に置くことも大切だが、保護されてばかりでは、いざという時に一人で行動して生きていくことができないのでは？と考えたから

〈平塚さんに共感する〉

- ・女性が社会に進出するためにはまず家庭の中で力をつけるべきだから。そのために国がそのサポートをするべきだと思うから
- ・女性も働いたりして、親二人が共働きとかだったら、子供の面倒を見れないから、そういう施設とかを作ったりするのは、国人々が協力していかないと、女性一人に任せっきりのは大変。その子供がまた大人になったときに国に貢献できるように、子供のうちは協力する。
- ・出産や育児はとても大切なことだと思います。それを家族内だけで行うのは大変だと思うし、リスクが高いかなと思ったので、国がサポートしてくれれば、少しでも楽になると思ったから平塚さんにしました
- ・とってもしリスクのあることだし国からのサポートも必要だと思うから
- ・出産した後や赤ちゃんがいるときは働けないので、国がサポートするべき
- ・これから大きくなっていて、もしも時が出来なくなってしまっても国が助けを求めれば育児をしてもらえて、お金などがなくても国が出してくれるから
- ・女性と夫で行っていくのでは、困ってしまうことが二人の中でもたくさんあると思うし、国がサポートをしていけば、家庭の中でも安心して出産や育児を行えるから
- ・男女はやっぱり、力の差がある。一人一人が手に職をつけようとしても難しいと思う。だから、国家がサポートしつつ出産育児をしながら、仕事するのは大変だと思う。
- ・与謝野さんのこともわかるけど、子供がいる中で自分の仕事っていうのは大変だし、難しいと思います。平塚さんの国が支援というのはいいことだと思う。
- ・女性の手だけでは難しいところや大変で出来ないところがあるので、国に支援してもらうのは当たり前であると思ったから。
- ・自立をするのも大事だが、女性は命がけで出産をしてから子育てをし、危険と一緒に生活している → 育児をしていることで国に貢献しているのでサポートするのも大事ではないかと思ったから
- ・最近は結婚をしない人やシングルマザーが増えていると思うので、支援があった方が確実に出産・育児がしやすいのではないかな
- ・国が女性や子供をサポートすることで少しでも不安を無くすことができるかもしれないから
- ・家庭内で支え合いを行っていくことには、共感したけど、働いて経済的に独立して認められるというより、様々なリスクもあるから、国から支援を受けた方が、女性がちゃんと認められているのではないかと思ったから
- ・男性にはできず、女性にはできることがあるから、そう考えると、国は元気な子を育てるために、それなりのサポートをするのが当然だし、子どもは母がいないと生きていけないと思うので、母の重要性を知るべきだと思う。そうすることで、自分が大人になったら気づくことになる
- ・女性は育児などで大変になっているのに、女性も男性と同じぐらいの仕事をするのは難しいと思うから
- ・国が人を守るのは当たり前だし、未来を見通すのが大切なので、女性がしてくれていることを当たり前と思わずに、そのやっつけてくれることに感謝をもって広く自覚することが大切と思うからです
- ・出産や育児を女性がしていかなければいけないから、国が守れるようなシステムをつくってくれることで、女性の経済的独立がきることだから
- ・子をもつ母が男性と同じように働くことはできないと思うところに共感したから。また、男性が優遇されているから。女性もサポートされるべきだと考えたから

結果はほぼ真っ二つに分かれました。この論争を紹介したのは、現代日本においてもまだこの論争の域を超えた議論がなされていないからです。日本は100年前から、「女性の自立」と「女性と子どもの保護」を超える議論や制度づくり、そして社会の受け入れ方などがほとんど変わっていません。また、男性が父としてどう出産・育児をするかという事は社会的には大きな議論になりません。早くこの議論を超えて、本当の意味で女性が気兼ねなく人生を選べるそういう社会をつくっていきたいですね。

☆もっと深める



与謝野さんは女権主義、平塚さんは母性主義と言えるが、共に資本主義による労働・育児を前提にしているからおかしい。社会主義の立場から、育児施設をつくれれば、女子も男子も変わらずに働くことができる。社会の改善でもって、平等に働けるようにすればよい。

※山川菊栄 夫も日本を代表する社会主義者の山川均

☆さらに深める ～世界で広がったアナーキズム～

・ジョン・レノン

ビートルズのボーカル、シンガー・ソング・ライター。平和活動家としても活躍
『Imagine(イマジン)』1971年



Imagine there's no Heaven
It's easy if you try
No Hell below us
Above us only sky
Imagine all the people
Living for today...

想像してみて 天国がないことを
(やってみれば)簡単でしょう？
地面の下には 地獄は無いし
僕たちの上には ただ空があるだけ
想像してみて 全ての人が
ただ今を生きているって…

Imagine there's no countries
It isn't hard to do
Nothing to kill or die for
And no religion too
Imagine all the people
Living life in peace

想像してごらん 国境のない世界を
そんなに難しくないでしょう？
殺す理由も死ぬ理由も無く
そして宗教も無い
想像してごらん 全ての人が
ただ平和に生きているって…

You may say I'm a dreamer
But I'm not the only one
I hope someday you'll join us
And the world will be as one

夢を見ているだけと言うかもしれない
けど僕一人だけじゃないよ
いつかあなたも必ず仲間になって
必ず世界はひとつになるんだ

・ジョージ・オーウェル



イギリスの小説家、全体主義社会を風刺した「動物農場」や、危険性を示した「1984」などの作品が有名。特にソビエト連邦をテーマにして滑稽に描く内容が多く、政治理念の正しさではなく、人間社会で自由がなくなるとはどのようなことかに重点を置いている。

・レフ・トルストイ(社会主義という考えが生まれる以前の思想家)



ロシアの小説家、ロシアとフランスの戦争を描いた「戦争と平和」、領地の娘として豊かに暮らす女性の変遷を描いた「アンナ・カレーニナ」などの作品が有名。トルストイは個人の社会貢献が続くことで、社会が調和することを理想としており、初期の社会主義や社会改善の動きに貢献した。